

ターゼナを服用する前にご確認ください

● 中等度以上※の腎機能障害のある方⁷⁾

ターゼナの副作用が強くあらわれる可能性があります。

投与開始のお薬の量を減らすなど、

慎重に治療を進める必要があるため、

ターゼナによる治療を始める前に、

担当医や看護師、薬剤師に申し出てください。



※推算糸球体ろ過値 (eGFR)：60mL/min/1.73m²未満

eGFRは、血清クレアチニン値、年齢、性別から推算するもので、腎臓の機能を表す値として使用されています。
90mL/min/1.73m²以上は腎機能正常になります。

また、上記eGFRに身長と体重を含めて推算する個別化eGFR (mL/min) が用いられる場合もあります。

本剤に関する患者さんご家族の皆様向けとして
「患者向医薬品ガイド」が下記に掲載されております。

独立行政法人 医薬品医療機器総合機構ホームページ

<https://www.pmda.go.jp/index.html>

患者向医薬品ガイド

<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/items-information/guide-for-patients/0001.html>

緊急連絡先

医療機関名

科名

担当医名

電話番号

- 1) 厚生労働省 重篤副作用疾患別対応マニュアル 薬剤性貧血 (令和3年4月改訂) (閲覧日：2023年11月13日)
- 2) 厚生労働省 重篤副作用疾患別対応マニュアル 無顆粒球症 (令和4年2月改訂) (閲覧日：2023年11月13日)
- 3) 厚生労働省 重篤副作用疾患別対応マニュアル 血小板減少症 (令和4年2月改訂) (閲覧日：2023年11月13日)
- 4) 厚生労働省 重篤副作用疾患別対応マニュアル 間質性肺炎 (令和元年9月改訂) (閲覧日：2023年11月13日)
- 5) 厚生労働省 重篤副作用疾患別対応マニュアル 血栓症 (令和3年4月改訂) (閲覧日：2023年11月13日)
- 6) ターゼナ®カプセル 電子化された添付文書 15.1 臨床使用に基づく情報 2024年1月 (第1版)
- 7) ターゼナ®カプセル 電子化された添付文書 9.2 腎機能障害患者 2024年1月 (第1版)

RMP



ターゼナを 服用される方へ

本冊子では、特にご注意ください副作用について解説しています。

- | | |
|---------|-----------|
| 1 骨髄抑制 | 2 間質性肺疾患 |
| 3 血栓塞栓症 | 4 二次性悪性腫瘍 |

また、下記にあてはまる方は、慎重に治療を進める必要があります。

● 中等度以上※の腎機能障害のある方

※推算糸球体ろ過値 (eGFR)：60mL/min/1.73m²未満

本冊子に記載した副作用は、ターゼナによる副作用のすべてではありません。
このほかにも、**気になる症状が認められた場合には、
担当医や看護師、薬剤師に相談してください。**

1 骨髄抑制

骨髄機能が抑制されると、次のような症状があらわれることがあります。場合によっては、輸血が必要になることがあります。

貧血¹⁾：めまい、動悸、ふらつき、
体がだるい、頭痛、耳鳴り、
息切れ など

感染症²⁾：発熱、寒気、のどの痛み など

出血³⁾：手足に点状出血、あおあざ、
鼻血、歯ぐきの出血、
血が止まりにくい など



骨髄機能の状態を確認するため、血液検査を行います。
担当医から指示された検査は必ず受けるようにしましょう。

2 間質性肺疾患

肺にある「肺胞(空気を取り入れる袋)」の壁が厚くなって、酸素を取りこみにくくなり、以下の症状がみられます。

息切れ⁴⁾：坂道や階段を登ったり、
少し無理をしたりすると
息切れがする

息苦しさ⁴⁾：安静時でも息苦しさを
感じるようになってきた

咳⁴⁾：から咳(乾いた咳)、痰のでない咳
発熱⁴⁾



3 血栓塞栓症

血管の中に血のかたまり(血栓)ができ、それにより血管がつまる病気です。血が届かなくなった部位や臓器は障害を受けます(壊死)。部位によって様々な症状があらわれます。

肺塞栓症⁵⁾：息切れ、胸部の痛み、胸がドキドキする など

深部静脈血栓症⁵⁾：手足の腫れ、(痛みを伴う場合もある)
まひ、しびれ、
発赤、熱感 など



4 二次性悪性腫瘍

骨髄異形成症候群(MDS)、急性骨髄性白血病(AML)などが報告されています⁶⁾。

骨髄異形成症候群(MDS)：血液細胞のうち、赤血球、白血球、血小板すべてが減る場合と、いずれかが減る場合がある

*急性骨髄性白血病(AML)に移行することもあります。

急性骨髄性白血病(AML)：赤血球、白血球、血小板が減少する

*進行が速く、急に症状があらわれることが多いです。

症状は「1. 骨髄抑制」を参照ください。

重症化を防ぐには、早期発見がとても大切です。

本冊子に記載した副作用は、ターゼナによる副作用のすべてではありません。

上記のような症状のほかにも、気になる症状が認められた場合には、担当医や

看護師、薬剤師に相談してください。